

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(~~認知症対応型共同生活介護事業所~~ ・ 小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホームおだやか	評価実施年月日	平成20年11月
評価実施構成員氏名	工藤美果 三上友紀 橋本フサ 笹浪哲子 滝川ひろ子 菅沢淳子 高野廣子 長内美保子 三浦里美 野崎妙子		
記録者氏名	工藤 美果	記録年月日	平成20年11月29日

北海道保健福祉部福祉局介護保険課

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>1 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	<p>その人らしい生活を送るために必要と思われる理念を事業所の想いを取り入れながら分かり易い言葉でつくりあげ、玄関などに掲示している。</p>	○	<p>地域密着型であることを強調した理念となるよう、職員の意見を聞きながら見直しを図っている。</p>
<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>2 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	<p>出勤時に理念の確認を行い、毎日の生活の中で実践できるように心掛けている。また、職員同士が理念から外れるような言動が見受けられた場合は注意できる環境にするよう努めている。</p>	○	<p>会議の場で職員全員に理念の見直しの意見を諮り、より身近なものとなるよう取り組んでいる。</p>
<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>3 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	<p>ご家族や地域の方々へは各行事の協力要請時などに事業所の理念を取り入れながらお話している。また、運営推進会議でもご理解いただけるよう取り組んでいる。</p>		
2. 地域との支えあい			
<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>4 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	<p>密集した住宅地なので隣近所の方とは毎日のように顔を合わせられ、洗濯物干しやゴミ捨て、買い物や散歩など、ちょっと外へ出たときに声を掛けていただける環境にある。</p>		
<p>○地域とのつきあい</p> <p>5 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	<p>ご近所の方の家庭菜園などからの差入れや地域の方からの海産物や農産物の差入れをよくいただいている。お祭りの参加、近隣の小学校の児童が遊びに来たり、カラオケや民謡のチャンピオンがお誕生会に来て歌って下さったりと地元の方々と交流することに努めている。</p>	○	<p>来ていただくだけでなく、地域の行事に参加するために出掛けるような取り組みもしていきたい。</p>
<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>6 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	<p>日頃から地域の高齢者の暮らしに役立つ事がないか話し合っているが、些細な事しか現実化できていない。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>会議でサービス評価の意義を職員全員に伝えている。また、外部評価の結果を踏まえ、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる為の努力をしている。</p>	○	評価表を職員全員がそれぞれに記入したことで意識が高まった。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>まだ一度しか実施していないが、サービス向上に活かしていきたい。</p>		
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>市町村の関係各課と連携を取り、担当者に勉強会を依頼したりしている。</p>		
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>成年後見制度が必要になる可能性が出て来た際に勉強会を設け管理者から職員に制度の説明と、その入居者さまの状況に合わせた想定をして、活用できるよう備えた。</p>		
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p> <p>虐待防止の研修会への参加のほか、知らず知らずの内に虐待を招いていたということの無いよう、会議の場で具体例を挙げながら自分の支援、お互いの支援を見直し、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>契約前に説明をし、時間をかけてよく考えたうえで納得いただけるようにしている。必要とあれば時間をとり説明しており、契約時にも十分に時間をとり、経営理念やケアに対する考え方や取り組み、また退去を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	入居者様の言動からその思いを察する努力をし、入居者様の意向が反映できるように心掛けている。また、会議で入居者様の不安や意見を話し合い職員共通の意識として位置づけている。		
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	ホームでの様子や金銭の報告、職員の移動は個々に新聞のようにして月初めにご送付している。また、面会時に日頃の状態を説明しており、突発的に何かがあった場合はお電話で説明している。		
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	苦情受付窓口を設けており、国保連のポスターも掲示している。また、管理者自らのご家族に対して話しやすい雰囲気を中心掛けており、職員も面会時日頃の利用者様の様子を説明し、意見、不満がないかをお尋ねしている。		
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	運営者や管理者は日頃からコミュニケーションを取るよう心掛けており、職員からの意見や提案は出来るものは取り入れ、出来ないものは出来ない理由を説明している。		
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	その時の状況に応じて時間帯の変更や新規職員の配置、ボランティアの要請など柔軟な対応が出来るよう話し合い、調整をしている。		
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	管理者が異動や離職をする場合は最低1ヶ月前に届出を出すことになっている。その間新人と一緒に行動して早く職場になれるような体制にしている。また、異動や離職を抑えるよう管理者の意見を聞きながら運営にあたっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>研修の開催場所が遠方の場合には管理者が参加し職員へ伝えるようにしており、近隣での研修は職員に偏りが無いよう順番に参加を促している。</p>	
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>グループホーム協議会が主催する研修や懇親会、地域包括センター及びケアマネ研修などに参加している。また、他グループホームなどとの情報交換をし、勉強会などへ参加している。</p>	
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>勤務中でもその時の状況に応じて気分転換を図ってもらったり、職員が話しかけやすい雰囲気や日常を接している。また、休日に関しても希望日を聞き入れるなどして勤めやすい環境となるよう努力している。</p>	
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>頻繁に現場に来る機会を設け、個別職員の業務や悩みを把握できるよう努めており、資格取得などへの向上心のある職員には色々な面で協力できるよう努めている。</p>	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>事前面談で生活状況を把握するよう努めるとともに、ご自身の心身の状況に応じた対応をし、ご自身、職員双方が誤解無く受け入れられるようにしている。</p>	
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>これまでのご家族の思いなど、経緯について聴きながら、訪問や電話などの回数を重ねて信頼関係を築くように心掛けている。また、金銭面や今後のことなどの心配事は解消できるように説明を重ねている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談時ご本人やご家族の思いを、状況などを確認し改善に向けた支援の提案を行い、必要時は行政や他の事業所などに相談をするようにしている。		
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前にはホームの見学、職員の訪問などを行っている。先日はご家族からの入居依頼があった直後にご本人がホーム周辺をお散歩しておられたので、お茶にお誘いしてホームの説明をし納得してご入居いただいた。入居後は出来る限りご家族に訪問やお電話などを依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	支援する側、される側という意識を持たず、協働するようにしている。また、得意分野であろう事や経験してこられたであろう事柄に重点をおき、知識や知恵を教えていただくような場面作りをしている。		
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	ご家族が不安にならないように情報共有に努め、手紙や電話、来訪時に積極的に声掛けし職員は家族と同じ思いで支援していることを伝えている。		
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	ご本人とご家族の情態の変化に合わせ、より良い関係が築いていけるよう相談しながら支援している。また、お誕生会にお誘いしたり、外泊や外出の規制が無い事をご家族に伝え、安心して良い関係が継続できるようにしている。		
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	ご本人が大切にされてこられた馴染みの人や場所を把握し、今まで通りの関係を続けられるよう支援している。お友達のお宅への訪問や、通院していた病院、行きつけの美容室などにも出掛けることが出来るよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	みんなで楽しく過ごすことが出来る場を作ったり、入居者様同士の相性や個性を考慮しながら関わり合ったり、支え合ったりする場を設けるよう努めている。孤立しがちな入居者様には積極的に声掛けを行い一人ですごしても寂しくないようにしている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退去された後もご本人やご家族が納得できるような支援のあり方を検討しており、ご家族来訪時にご要望にこたえるべく随時運営者や管理者が相談にのっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人や家族の希望を反映して介護計画を作成している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前にある程度確認するようにし、落ち着いてから少しずつ尋ね、新情報に関しては職員と共有できるように記録に残すようにしている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	心身状態については医療との連携を図りながら現状を把握している。日々の記録から生活パターンや趣味嗜好、日課にしている事と役割や楽しみなど一人一人について把握するようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	計画作成担当者を中心として、その人らしく生活できるように本人、家族、必要な関係者と話し合いをし、それぞれの意見やアイデア、要望を聞き、日々の申し送りや職員とのやり取りから課題を検討したうえで介護計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	モニタリングを行い、プランを見直すと同時に心身の状況が変化した場合など必要に応じてケアプランを変更し職員と共有している。		
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子や実践したケアについて個別に介護記録に残し、申し送りをしながら情報を共有し実践しており、必要に応じてケアプランを変更し職員と共有している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	本人や家族のその時々々の要望の把握が遅くならないようにし、今までに経験の無い事柄や事例の少ない事柄に対しても臆することなく柔軟な姿勢で支援出来るよう努めている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じて各関係機関に協力を要請し支援している。		
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	ご本人やご家族の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネと連絡を取合い、必要時紹介できるようにしているが、まだ該当はない。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	入居者様の意向や必要性に応じて地域包括支援センターと連絡を取り、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について地域包括支援センターと協働している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医による適切な医療を受けられる支援はもちろん、以前からかかりつけている病院への通院の介助を行っている。また、ご本人やご家族の希望により必要な病院を探す支援もしている。		
44 ○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	道立江差病院や渡辺病院と連携をとり、状態変化の際は連絡相談をするようにしているが、遠方のため定期受診はしていない。		
45 ○看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	常勤の看護職員は確保できていないが、状態の変化に応じて地域の看護職に相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 ○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院をすることになった場合は、一日も早く退院できるように情報交換を行いながら、ご本人、ご家族が安心して治療に専念できるようにしている。また、そうした場合に備えて日頃からその状況を想定した情報交換に努めている。		
47 ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	入居時よりご家族と重度化した場合や終末期のあり方について説明をしている。入居後は今後の方針について検討している他、状態変化があった場合などの連絡先や病院などは細やかな打ち合わせを随時行っている。また、新たな情報などは職員全員で共有しご本人やご家族が満足できるよう努めている。		
48 ○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	ご本人、ご家族の意向を反映しながら主治医や病院と連絡、連携をとり、事業所の「できること・できないこと」を見極め出来る限りの支援を行っている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
<p>49 ○住替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。</p>	<p>住み替えによるダメージを軽減できるよう、ご本人やご家族、各関係機関と話し合いや情報交換に努め、必要に応じて職員を配置している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
<p>50 ○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。</p>	<p>毎月の会議の場で職員の意識向上を図るとともに、入居者様の誇りやプライバシーを損ねない対応を徹底するように心掛けると同時に、各記録もご本人やご家族がいつお読みになっても失礼の無い文面にしうえで保管している。</p>		
<p>51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。</p>	<p>入居者様の思いや希望を表せるように職員が声掛けをしたり、ご本人の日常の言動から探し、一緒に出来るように努めている。実現が困難な場合は納得できるように説明をしご了承いただいている。</p>		
<p>52 ○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>	<p>職員側のマニュアルにより入居者様のご希望にお答えできないということが起こらないよう、柔軟な対応ができる環境づくりを心掛けている。また、お一人お一人に合わせた生活ペースを大切にしながら、その日のお天気やご気分に合わせて支援をしている。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
<p>53 ○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>	<p>入居者様やご家族様の意向に沿った訪問美容室の依頼や、通いなれた美容室への外出などの支援をするとともに、行事や外出時はお化粧の習慣があったり興味があったりする方はお化粧をされるよう働きかけている。</p>		
<p>54 ○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>	<p>職員が用意したメニューに利用者様が縛られることのないようにしている。また、一人ひとりのお好みやお力に合わせて個別の食事提供をしている。基本的には地元の旬の食材を積極的に取り入れており、準備や片付けも出来る限り一緒にしている。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	入居者様の個々の嗜好に合わせて食事やおやつを提供するようにしているが、医療面からの指示がある場合には限度を超えないように対応している。また、お酒は希望があり、医療面で問題がなければ提供するが、タバコに関しては全館禁煙となっているため入居をお断りするか禁煙していただいている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄パターンを理解し、声掛けするとともにトイレで排泄できるように支援している。また、排便困難な状況と思われる行動があった場合は水分補給や食物繊維を多く摂取するための支援、排便を促す運動やマッサージをしている他、かかりつけ医に相談しお薬でのコントロールをしている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴時間や内容でご満足いただけるよう努めている。曜日に関しては希望が無い場合の目安として決めているが、希望があればいつでも入浴していただける。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	入居者様個々の生活パターンに合わせて睡眠できるようにし、生活リズムが一定になるように支援している。夜間寝付けない入居者様に対しては原因を探るとともに安心できるよう添い寝やお話、暖かい飲み物の提供を、朝起きるのが苦手な方には無理に起こすことの無いような対応をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	個人の生活歴や力を考慮し、日常生活の中で役割を見つける支援を行っている。一日の生活の中にメリハリをつけて充実して生活できる様にしている。また、時折行事やイベントへ参加していただく事により楽しみ事や気晴らしをしていただいている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お金を持つことの大切さは理解しており、お金を所持したり使ったりする能力がある方には出来る限りの支援をしているが、お金を所持することから放れた方から能力を引き出すことはたいへん難しい。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	冬期間は外出の機会が減るものの、暖かい時期はご本人の希望に沿って個別に買い物やお散歩、ご家族への面会などに出掛ける支援をしている。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	入居者様が行ってみたいところは普段は行けない珍しいところよりもご家族やご友人の訪問を希望される事が多いため、出来る限り支援している。その他に日常生活のちょっとした時間に他の入居者さまと一緒に掛ける支援を実施している。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	各居室に電話の設置は無いが、入居者様のご希望に応じていつでも利用できるようにしている。プライバシーに関してはコードレス電話で取り次ぎ、自室で長電話が出来るようにしている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	訪問に制限を持たず、いつでも来訪していただけるように雰囲気作りをするとともに、入居前の説明や日頃の声掛けに努めている。また、訪問が続けられるよう訪問者の希望に合わせた対応をしている。		
(4) 安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	毎月の会議の場で自覚しない身体拘束が行われていないかなどの点検をしている。また、日常的に疑問に思ったことはその都度対応できるように管理者が働きかけている。		
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵をかけることの弊害については管理者より職員へ周知させている。夜間は防犯上玄関に鍵をかけているが、日中は施錠をしていない。入居者様の居室も施錠はしていない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	入居者様のプライバシーに配慮しながら、昼夜を通して利用者様の所在や様子を把握し、安全につとめている。また、外出時や緊急時でも入居者様の所在や様子が把握出来るよう連携をとりながら安全を確保している。		
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者様の状況を勘案し、保管すべき物品と判断したものについてはご本人やご家族に納得していただいた上で管理している。		
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	毎月の会議の場で一人ひとりの状態に合わせて起こりうる事故を想定した話し合いをし事故防止について対策を練っている。また、事故があった場合は事故報告書を作成し、申し送りや会議で周知しているとともに繰り返さないように原因を追究し対策を練り、今後に生かしている。		
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	事務室に緊急時連絡網と入居者様個別の緊急連絡先を掲示しているほか、救急マニュアルを目の届きやすい場所へ置き対応している。		
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署の協力を得て避難訓練を行ったり、地域の消防団の方々に協力を得られるよう働きかけている。夜間を想定した避難訓練時にはご近所にも協力を要請し参加していただいた。		
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ご家族には入居時に基本的に自由とその人らしい生活が継続できるように説明するとともに、安全や健康には十分配慮をすることに伴うリスクについて説明をしている。また、状態の変化に合わせてその都度リスクについて説明している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	毎朝のバイタルチェックの記録や顔色、呼吸、活気などを常に観察している。体調不良の兆候が現れたりした場合は職員が情報を共有し、医療連携やご家族にだれでも連絡できるようにしている。	○	前回の外部評価で脇下の確認から脱水の防止に努めるようご指導いただいたので職員に周知させ実施している。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	内服薬の目的や副作用などが理解できるように処方箋をファイルしており、内服薬に変更があった場合はその理由などを含め介護記録や申し送りノートに記載し、職員が内容を把握できるようにしている。		
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	便秘の原因や及ぼす影響について勉強し、予防と対応のため飲食物の工夫や運動・マッサージに努めている。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	毎食後の口腔ケアはもちろん、協力医療機関である町立上ノ国歯科診療所の往診により口腔内の清潔や健康管理に努めている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	定期受診によりお一人お一人の栄養状態の確認をし、特に変化があった場合はその方だけの食事をご用意したり、個人の状態や力、習慣に応じ調理法を変えるなどしている。食事・水分の摂取量は毎日の記録に記載している。		
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し職員が自由に閲覧できるようにしている。また、時期に合わせて勉強会を開いたり、張り紙をするなどしている。また、入居者様お一人お一人に合わせた入浴や排泄を実施し、手洗い、ウガイの徹底を行い職員が媒体とならないようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79 ○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	食材に関しては出来るだけ地元の新鮮な食材を提供するよう努めている。基本的に在庫を置かないようにし、冷蔵・冷凍庫は一時保管的に使用している。台所を利用する職員や入居者様の清潔保持とゴミ箱や雑巾、まな板などは塩素系漂白剤を使用しての除菌、また、排泄や移動介助後の手洗いや除菌などを周知徹底している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり			
(1)居心地のよい環境づくり			
80 ○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	ホーム周辺に駐車できるスペースがあり来訪者が安心して出入りが出来るように、玄関前にはプランターを置いたり季節の変化が見られるように植物を育てている。	○	実のなる木を植えるなどして収穫祭などで地域の方々との交流の場を増やせるようにしていきたい。
81 ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間は地元で馴染みの深い季節のお花を飾るなど、全入居者様に不快を与えないよう配慮している。季節のものを取り入れるとはいえ、入居者様に受け入れられない場合は取入れを見送っている。		
82 ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	共有空間にも入居者様それぞれがお好みのいすや座布団・クッションなどを思い思いの場所に置かれご自分の居心地の良い席を確保し、本を読んだり、テレビを見たりしておられる。		
83 ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	タンスやお布団の他、居室でご使用になるものは出来る限り使い慣れたものをご持参いただき、ご自身の居場所が確認できるようにしている。		
84 ○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	共有スペースの換気も含め居室の換気も行い、空気の入替えをこまめにするようにしている。温度調整は湿度計付きで快適な状態が表示される温度計をしようし、状態に合わせて調整している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	廊下、トイレ、浴室、脱衣室には手摺を設置し、居室にも入居者の状況や希望に応じて手摺を設置している。また、身体の機能を考慮し、椅子やテーブルなどもその方に合ったものを使用し、安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるように工夫している。		
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	混乱や不安、失敗が続くことのないよう、日常生活から状況を確認し、無理に押さえつけることの無いよう原因を解明し適切な支援を行う。		
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	建物の周りの駐車スペースを利用し、テーブルやいすを出しておやつを食べたり日向ぼっこをしたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目		
項目	取り組みの成果	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<ul style="list-style-type: none"> ① 毎日ある ② 数日に1回程度ある ③ たまにある ④ ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての利用者 ② 利用者の2/3くらい ③ 利用者の1/3くらい ④ ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ全ての家族 ② 家族の2/3くらい ③ 家族の1/3くらい ④ ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<ul style="list-style-type: none"> ① ほぼ毎日のように ② 数日に1回程度 ③ たまに ④ ほとんどない

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
97	<p>運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。</p> <p>①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない</p>
98	<p>職員は、生き生きと働いている</p> <p>①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
99	<p>職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>
100	<p>職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う</p> <p>①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない</p>

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点
等を自由記載)認知症になっても安心して暮らせる町づくりを目指し、安心して暮らせるグループホーム作りに努めています。常に入居者様を中心に考え、その人らしく生活していただくためのサービスをどのように提供できるか、職員間で日々話し合い、会議の場でもそれぞれの考えや思いを活発に交換できるような人間関係を作っています。健康面では協力医療機関でお向かいにあります町立上ノ国診療所のご協力をいただき、また、経営母体であります四海堂整骨院から東洋医学を取り入れた治療の他、機能訓練指導員の機能訓練指導を取り入れています。地域に根ざした町内活動(お祭り、ゴミ拾い、花植えなど)への参加や日頃の差し入れなど、地域の皆様には温かいご支援をいただき、入居者様には馴染みの深い海・山・川の旬の食材をお召し上がりいただきながら北海道の大自然を楽しんでいただいています。残念なことに世間にはまだ認知症に対する偏見が残っているため払拭するべく地域に密着していきたいと考えております。